

A_片流れ屋根の右側部分が住居、左側がパン屋「田んぼのとなり」の店舗。ウッドデッキの先には田んぼが一面に。「春先、田んぼに水が張られると、山が映ってすごくきれい。湖畔のリゾートみたいになります」 **B_**パン屋のイートイン・スペースからもテラスに出られる。目の前には雄大な北アルプス。 **C_**隣家と近い南側には、目隠しを兼ねた薪棚を。薪ストーブの心地よさは妻の実家で体感済み。



のどかな田園風景を望む

暮らしとお店がつながる家

念願のパン屋と

心安らげる住まい。

想いを平屋につめこんで

東京から中信エリアに移住し、夫婦で思い描いていたパン屋を開いたNさん。店のイートイン・スペースからも、ダイニングの大

きな窓からも、四季折々に表情を変える田園風景と北アルプスの山々が広がります。

「半年ほど土地探しをして、このロケーションにまず惹かれました。初めて来た場所なのに、違和感がまったくなかったのです」

東京では分譲地に立つ築浅の一戸建てを購入して住んでいたものの、あまりしっくりきていなかったというNさん。新天地での住まいは、地元の気候風土を知り尽くし、美しい木の家を手がける小林創建に依頼しました。

「家をいちばん居心地いい場所に」。そんなNさんの願いを形にしたのは、注文住宅の「craft（クラフト）」でした。「木をふんだんに使いながらも、主張しない、すっきりとしたシンブルな住まい。だからこそ飽きることなく、住むほどに愛着と味わいが深まっていくはずです」と、営業を担当したUさんは話します。

ゆとりのある敷地に、動線に無駄のない平屋をプランニング。目の前が田んぼというロケーションを最大限に生かして、家族が集うダイニングの西側には大きな掃き出し窓を。

「早朝、北アルプスがピンクやオレンジに染まる『モルゲンロート』を眺められるのは、夜明け前に作業を始めるパン屋の特権かもしれません」



F_せいろやかごなど、民芸を感じる道具をキッチンの棚に並べて。奥に見えるのが、夫婦で営むパン屋の厨房。東側に向けた作業台にも窓を設け、仕事の合間も季節の移ろいを感じられるように。 **G**_コンロ周りに貼ったタイルが、さりげないアクセント。 **H**_畳の部屋が欲しくて、子供部屋を和室に。今は寝室で親子一緒に寝ているそう。 **I**_陶器のシンクと木のカウンターを組み合わせた造作洗面台は、奥様のリクエストで。窓から朝の光が入る気持ちのいいスペース。



N邸に入って驚いたのは、11月中旬の取材だったにも関わらず、お子さんたちが裸足で家中を走り回っていたこと。「以前の家も断熱性は高かったけれど、ここはそれ以上に感じます。リビングのエアコン1台で家中暖かい。薪ストーブを焚くのは真冬にとっておきます」とNさん。床材はオークの無垢フローリング、壁は漆喰、リビングダイニングの天井は無節のスギ板張りと、Nさんが希望した自然素材もまた空間にぬくもりをもたらし、居心地をよくしています。加えて、

年中快適な高断熱の家。
素足に心地いい
無垢フローリングを家中に

キッチンやトイレ、脱衣室にまで無垢のフローリングを採用したのも、Nさんの要望から。「お風呂上がりの素足にとても気持ちいいんです。夏は大人も裸足で過ごしていますよ」
リビングのソファに座ると、西側の高窓から空が見えて、夜にはここからお月見もできるそう。ダイニングから出られるウッドデッキには椅子やハンモックを置いて、子どもたちは絵を描いたり、夏には夕涼みしたり。「以前は休日になると外に出かけなくなったけど、今は家でくつろぐ時間が心地よくて、満たされます」
移住という選択の先で、改めて向き合った住まいづくり。そこには、家族でにぎやかに楽しむ豊かな時間が流れていました。



D_どっしりとした無垢のフローリングと板張りの天井、漆喰の壁が、空間にぬくもりとやわらかな空気感をもたらす。妻の実家から譲り受けた一枚板のダイニングテーブルも、インテリアに溶け込んでいる。 **E**_LDKの真ん中には、炎の表情が楽しめるヨツールの薪ストーブをセレクト。炎の心地よさに家族が自然と集まってくる。

J

A ➤



A 家族が自然と集まり、暮らしやすさとデザイン、良質な素材を生かした、永く愛せる住まいをつくることです。



L

